

令和6年度 墨田区立業平小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 伊藤 康次

学校教育目標	◎進んで学ぶ子【重点】 ○やさしい子 ○元気な子
目指す学校像	■子供たちが自らの誇りにできる学校 ■教職員が誇りをもって働くことができる学校 ■保護者・地域が誇りにすることができる学校
目指す児童像	・他者に認められ、支えられ、安心して通うことができる。 ・自分のよさや可能性に気づき、生き生きと自信をもって発揮することができる。 ・困難にも負けない、チャレンジする気持ちを持ち続けることができる。
目指す教師像	・研究と研修を土台にして、教育者としての自信と意欲をもつ。 ・自らを律し、使命感と組織の一員として協働しながら目的の実現をめざす。 ・常に互いに敬意と感謝、立場を尊重し合い、自己のライフスタイルの充実をめざす。

○令和6年度 学校経営計画における重点内容
令和6年度短期目標「主体性」・「協働性」・「新たな価値」を生む教育の推進

①「**子供**」を主語にする教育
子供の学びの姿、成長、変容を見取り、理解を深め、互いに共有していくことを大切に、子供自らが問いをもち、追究し、考え、表現し、さらに問いを更新していくことができる教育活動を推進する。

②「**子供**」一人一人を認め、寄り添う教育
特別に支援が必要な子供や不登校、登校しぶり、学級不適応、不安、ストレスなど個々の心の状態を肯定的に受け止め、全教職員で共有し、一貫した支援体制の一層の充実を図る。

③「**温かい厳しさ**」のある教育
いじめをしない、させない、許さない、見逃さない。学校のきまり、ルールやマナーを全教職員でぶれることなく指導し、厳しさの中に温かみのある教育を徹底する。子供たちを認め、励ましていながら、困難にも折れることのない「しなやかな強さ（回復力・レジリエンス）」と自己肯定感を養う。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	子供一人一人の興味・関心、思いや願い、問題意識等を大切にしたい学びの充実	児童の学びの姿を想定した授業づくりを行い、児童が自らの考えを伝え合い、練り上げることができる授業を推進する。	4 年7回の公開研究授業実践及び自主的公開研究授業		4 児童アンケート「考えを広げる」10%超上昇						
			3 7回実施		3 概ね10%						
			2 6回実施		2 変化なし						
			1 5回以下		1 マイナス評価						
	タブレット等を活用しながら、一人一人の学習の定着状況や学び方特性に基づく指導の確実な実施	毎時間、単元末など計画的に学習アプリを活用し、基礎的、基本的な学習内容の確実な定着を図る。	4 毎時間実施		4 6年算数D・E層20%未満						
			3 概ね毎時間実施		3 現状と変化無し						
			2 単元内で複数回実施		2 微増（概ね25%程度）						
			1 単元末のみを中心に実施		1 D・E層増加（25%超）						
	探究する価値のある「問い」をもち、問い続け、「問い」を更新していく学びや多様な他者と関わる力を高める学びの推進	地域素材や地域の特色を生かした協働的・探究的な学習を推進する。	4 「地域素材を生かした授業を推進した」100%		4 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答95%						
			3 「地域素材を生かした授業を推進した」90%		3 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答90%						
			2 「地域素材を生かした授業を推進した」80%		2 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答80%						
			1 「地域素材を生かした授業を推進した」80%未満		1 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答80%未満						
生活指導等	特別な支援を必要とする子供に対して情報の共有、支援の方向性の一貫化を図り、組織的対応力の向上を図る。	「なりひライオンルーム」の機能充実、「リフレッシュルーム」の新規開設、見守り体制の確立を通して、登校しているが学級には入れない児童の支援体制を強化する。	4 教員アンケート「見守り体制の効果」90%以上肯定		4 学級不適応ゼロ						
			3 教員アンケート「見守り体制の効果」85%以上肯定		3 現状と変化無し						
			2 教員アンケート「見守り体制の効果」80%以上肯定		2 学級不適応の微増						
			1 教員アンケート「見守り体制の効果」80%以上未満		1 学級不適応の増加						
	特別支援教育コーディネーターを複数配置して速やかな実態把握、支援の方向性、組織的対応のあり方を明確に学校全体で共有する。	児童カルテを活用して、児童の状態像や行った支援、対応するときの留意点を記録し全体で共有する。	4 教員アンケート「カルテの効果」90%以上肯定		4 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答85%						
			3 教員アンケート「カルテの効果」85%以上肯定		3 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答80%						
			2 教員アンケート「カルテの効果」80%以上肯定		2 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答変化無し						
			1 教員アンケート「カルテの効果」80%以上肯定		1 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答減少						
	「業平小ルール」の徹底を図り、全教職員でブレのない一貫した指導をめざす。	きまりを守ることの意義を考えさせたり、週の生活目標について、適時意識させたりしながら、児童自らが望ましい学校生活習慣の定着をめざすことができるように指導する。	4 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」100%		4 児童アンケート「きまりを守る」95%以上						
			3 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」95%		3 児童アンケート「きまりを守る」90%以上						
			2 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」90%		2 児童アンケート「きまりを守る」85%以上						
			1 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」90%未満		1 児童アンケート「きまりを守る」85%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
学校の管理運営	安心・安全な教育活動を行うことができる教育環境・設備等を整える	遊び方のルールを徹底させるとともに安全指導を通して、危険予測、危険回避の資質・能力を育む。	4	教員アンケート「安全指導の徹底」100%	4	高学年けがによる保健室来室昨年度比50%以上減少					
			3	教員アンケート「安全指導の徹底」95%以上	3	高学年けがによる保健室来室昨年度比30%以上減少					
			2	教員アンケート「安全指導の徹底」90%以上	2	昨年度比と変化無し					
			1	教員アンケート「安全指導の徹底」90%未満	1	来室状況増加					
		安全点検の徹底を図り、児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整備・構築する。	4	月1回を超える点検、即時修繕	4	保護者アンケート「事故防止、安全指導」90%以上					
			3	月1回の確実な安全点検と修繕の実施	3	保護者アンケート「事故防止、安全指導」85%以上					
			2	状況の成果目標が達成できなかった場合は、「1」と評価する。	2	保護者アンケート「事故防止、安全指導」80%以上					
			1		1	保護者アンケート「事故防止、安全指導」80%未満					
			4		4						
			3		3						
			2		2						
			1		1						
家庭・地域連携	学校が果たすべき責任の明確化と保護者、地域がそれぞれの役割を意識しながら、協働的に子供を育む体制を構築する。学校教育への関心を高め、進んで支援、協力できるような情報発信を充実させる。	PTA主催によるおまつりや防災教室、体力作り等の取り組みについて、学校学校教職員も協働して、取り組みの充実を図る。	4	教職員が主体的にPTA行事に参加	4	保護者アンケート「行事で生き生き」95%以上					
			3	上記以外の場合は、評価を「1」とする。	3	保護者アンケート「行事で生き生き」90%以上					
			2		2	保護者アンケート「行事で生き生き」85%以上					
			1		1	保護者アンケート「行事で生き生き」85%未満					
			4		4						
			3		3						
			2		2						
			1		1						
			4		4						
			3		3						
			2		2						
			1		1						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）